

衣類廃棄物によるゴミ問題と裂織の日常浸透

Upcycling and Sakiori

齋藤ジェメリー

指導教員 西野隆司

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 値値創造研究室

キーワード:循環型社会,アップサイクル,衣類廃棄物,裂織

1. 調査内容

①衣類廃棄物の行方について調査

使い終わった衣料品の行方		量(千 ton)	%
リユース	小売店の引き取り	8	1
	リサイクルショップ販売	33	3
	ネットオークション販売	17	1
	他人への譲渡	61	5
	ボロ選別業者→中古衣料 (海外)	96	8
	ボロ選別業者→中古衣料 (国内)	7	0
リサイクル	ボロ選別業者→反毛原料	24	2
	ボロ選別業者→ウエス	38	3
ゴミ		977	77
衣料品排出量合計		1261	100

木村(2010)によれば『日本の年間繊維総消費量は約20万トンであり、194万トン近くが廃棄され、そのうち126万トンが家庭から排出される衣類品が占めている。18%が中古衣類品等としてリユースされており、5%が反毛(不要になった繊維などを専用の半毛機械を使って、もう一度綿状に戻すこと)やウエスとしてリサイクルされている。残り77%は可燃ゴミや不燃ゴミとして廃棄されている。』

また身近にいる人に「不要になった服はどうしているのか」と聞いたところ、「可燃ゴミとして捨てている」「古着屋に売りたいが、手間が掛かる」という意見が多かった。

②アップサイクルについて調査

アップサイクルとは、不要になったものや廃棄物に新たな価値を与えて再び使用する動きのことである。現状としては、日本での知名度が低く、アップサイクルの認知が進んでいない事が調査から考えられる。

③裂織について調査

広辞苑には「裂く」裂織と「割る」割織が記載されており「細く裂いた布・絹地を縷(よこいと)として織り込んだ織物つづれ。さっこり。さっくり。」と説明されている。裂織は織物の一種であるが、紬織などのように組織や柄模様に基いて分類される名称ではない。また商品名でもない。

また地域によって名称がさまざまであり、サキオリ系、ボロ系、ツヅレ系の三つの系統に分かれている。

2. アイデア展開



裂織の「古着」を利用した貧しい織物というイメージを無くすために、既存の大人をターゲットに商品ではなく、子供の頃から使える商品を提案。裂織を子供の頃から触ることで、衣類によるゴミ問題を意識させる。

3. 現段階での最終提案

①商品企画:キー ホルダー、文房具

アップサイクルと裂織をターゲットの年代にとって身近に感じてもらうために、キー ホルダーとペンケースなどの文房具を制作。キー ホルダーと文房具を制作することで学校でも使って、毎日アップサイクルと裂織に触れることができる

②商品コンセプト:普段使い

衣類廃棄物によるゴミ問題の認知を広め、裂織を「普段使いできる」存在に考えて欲しいということから、「普段使い」をコンセプトにキーホルダーと文房具を作成する。

③材料:不要になった衣服や布

夏服と冬服では素材が異なっているため、それぞれを分別し、同じ素材同士で制作する。



④ネット販売:幅広い年齢層が使用するSNSを通じて、minneを使用して販売実験。

4. 参考文献

衣類の消費と廃棄・循環の実態と課題

木村照夫 (2010)

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/mcwmr/
21/3/21_140/_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/mcwmr/21/3/21_140/_pdf)

裂織の地域的存立基盤に関する一考察

人間発達文化化学類 初澤敏生 (2011)

[http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/
fukuro/R000003973/18-153.pdf](http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000003973/18-153.pdf)

資源循環型文化・裂き織りに使用される古布の流通機構

(2003)

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssdj/
50/2/50_KJ00000848361/_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssdj/50/2/50_KJ00000848361/_pdf/-char/ja)